

幼児期子育ての 教科書

子育てが楽しくなる考え方、子どもが伸びるしつけの仕方、
問題行動改善法、手遊びや絵本の効果的な取り入れ方、
一生付き合える最高のママ友作り方…などを解説！



0歳から6歳までの子どもがいるママ向け

幼稚園教諭時代の7年間で約2000組の親子を
サポートしてわかった子育てのヒントを公開

幼児期の子育てアドバイザー
かがりいさ

【推奨環境】

このレポート上に書かれているURLはクリックできます。できない場合は最新のAdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://get.adobe.com/jp/reader/>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は株式会社Adventure Lifeに属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

目次

1 章. 幼児期の子どもへの理解

1. 幼児期とはどんな時期か

2. 子どもの性格・人格・人生は幼児期でほぼ決まる

3. 幼児期の子どもたちに 1 番大切なことは？

4. これさえ知っておけば 8 割子育ては成功する！

1 章. 幼児期の子どもへの理解

1. 幼児期とはどんな時期か

幼児期というのは、1 歳～ 1 歳半以降から就学期（小学生に上がる）

までの時期で、この時期を通して子どもは二足歩行になり

手指の使い方もより器用・強くなり、いろいろなことが

自分 1 人でできるようになります。

また、言葉を獲得して、言葉や動作を通して、

自分の意思を表すことができるようになります。

対人関係も広まり、1 人の人間として自立していきます。

なので、この時期というのは

子どもの気持ちを受け止め尊重してあげること、

またできるだけ子どもにチャレンジをさせてあげること、

そして自信を持たせてあげることが大切になります。

そして、いろいろな人や物、環境に

触れ合う時間をたくさん作っていつてあげてほしいと思います。

子どもは五感を最大限に使って、いろいろなことを感じ

そして学んでいきます。

そこで感じたもの・得たこと・学んだことは

子どものこれからの人生の中で、

何らかの形でエネルギーになっていくはずだからです。



このように、幼児期の子どもの発達の特徴を

把握するということは、子育てをする上での基本でも

ありますしとても大切になります。

なぜなら、発達を理解しているだけで、

正しく子どもに接することができ

発達に必要な経験をさせてあげられるようにもなるからです。

そのためにも、幼児期全体の特徴だけでなく、

年齢別の発達の特徴も併せて把握することが大切です。

それだけで、より子どもの成長を促して

いくことが可能になりますよ！

子どもの**発達に最も必要な経験をさせ**

効率よく成長を促していくためにも、

年齢別の発達の特徴については2章の方でお話しています。

2. 子どもの性格・人格・人生は幼児期でほぼ決まる

“三つ子の魂百まで”ということわざがあるように、

3歳までに覚えたこと、身につけたこと、教育などは
すべて死ぬまで忘れません。

それだけでなく、**性格や人格などというのは、**

幼児期の大人の接し方や環境などで

90%は決まってしまうと言っても過言ではありません。

親や周りの人たちが一切子どもに対して
話さず笑いもしなかったら、子どもは言葉を習得できず、
言葉が遅れてしまったり、口数の少ない、
笑わない、おとなしく暗い子どもになってしまいます。

また、手をあげられたりして育った子というのは、
暴力的な行動が多くなり、**周りの子にも同じように**
暴力的な言葉・行動をしてしまうようになります。

そのような子というのは、自分が家庭を持った時にも、

奥さんや子どもに同じようなことをしてしまう傾向にあります。

そのようになれば、もちろん最悪な人生です。

DVによって捕まるかもしれませんし、度が過ぎてしまい、

最悪の場合、周りの人を殺してしまうことだって

あるかもしれません。



このように、育ってきた環境によって、

子どもの性格・人生までも決めてしまうのです。

なので、**幼児期の育つ環境や接し方などは、**

特に大切になるのです。

幼児期に全てが決まってしまうと思って、

子どもへの接し方を意識するようになさってくださいね！

3. 幼児期の子どもたちに1番大切なことは？

子どもにとって一番大切なことは何だと思いますか？

それは、たくさん甘えさせてあげるということです。



なぜなら十分甘えさせてあげることで自己肯定感が育ちます。

そして自己肯定感が育ってくると、心が安定してきます。

この自己肯定感というのは

「自分は愛されている」

「自分は必要とされている」

「自分は自分のままでいいんだ」という、

自分の存在価値を認め、自分自身を大切にできることですが、

これは乳幼児期の接し方がとても大きく影響します。

人間というのは、最初は自分1人では何もできない状態で

生まれ、そして周りの人たちに“甘え”育っていきませんが、

だんだんと自分でできることも増えてきて、

「やってもらう」ということから、「自分でやる」という

“自立”へと変わっていきます。

そして、子どもは自立していく中で何度も壁にぶつかり、

挫折を経験する度にお母さんのところに戻ってきて甘えます。

そして甘えることで、不安な気持ちを解消し、

“甘える”と“自立”を繰り返して成長していきます。

そして、小さい頃にたくさん甘えさせてもらって
育った子というのは、自己肯定感が高いので、
不安な気持ちよりも自信の方が大きく、何事にも
積極的に挑戦しようとする意欲に繋がるのです。

その結果、十分に甘えて育った子というのは
失敗を恐れずに新しいことにどんどんと

チャレンジをしたり、一人で決定できる自立した大人、

そして自分がされたと同じように周りの人たちに

接するようになるので、**周りの人たちを大切にできる**

優しく思いやりのある人間になります。



しかし十分に甘えられず

育ってきた子というのは、認められるという

ことをされてきていないので、自信よりも不安が大きく、

何事も自分一人で決められない・挑戦できないという、

いつまで経っても自立のできない大人になったり、

周りの人に対しても**冷たく、思いやりのない人間**に

育ってしまうのです。

※甘えさせると甘やかすは違います。

⇒5章で詳しく解説しています。

甘やかされて育ってしまうと、

自立できない大人になってしまいます。

また、十分に甘えられずに育った子というのは、

自己肯定感が低く、自分の必要性を感じられなくなってしまうので、

「自分は誰からも必要とされていないんだ」

「自分なんていなくてもいいんだ」という悲観的な

考え方になってしまい、自分の存在価値がわからず、

平気で自分自身を傷つけたりするような人間になってしまいます。

そして見てほしいアピールから、
平気で自殺をしたり、非行や犯罪に
走ってしまうようになったりするのです。

このように、子どもへの接し方1つで
子どもの性格や人生までも大きく変えてしまいます。

子どものためにも、乳幼児期にはできるだけ
たくさん甘えさせてあげるようにしましょう。



伝え方1つでも、知らず知らずのうちに

子どもの気持ちを否定してしまっていたり
自尊心を傷つけてしまっていることがあります。

それによっても子どもの心は大きく変わってしまいます。

子どもに伝えるときのベストな伝え方については
4章の方で詳しくお話しています。

子どもの自尊心を傷つけずに、しっかり
お母さんの気持ちが伝わるので、イライラしたり
何度も言ったりしなくても済むので、お母さんも疲れたり
怖い顔をするのがなくなりますよ！

4. 子どもが親に求める3つのこととは？

どんな子どもでも、必ず親に求めていることや、

抱いている気持ちというのがあります。

それは、**“愛されたい”“認められたい”**

“大切にされたい（必要とされたい）”この3つです。

この3つというのは、幼児期の子どもだけでなく、
全ての子どもが抱いている感情・欲求です。

子どもが抱いているこの3つの感情・欲求が
満たされない時というのは、

子どもはいろいろな行動で見てほしいアピールをします。



叱ったり、感情で怒ったりしてしまうことが多かったり、

子どもの要求に対して無視をしてしまったり、
また間違った対応が続くことによって、
子どもは“ぼくのことなんて大切じゃないんだ”
“愛されていないんだ”“わたしなんてどうでもいいんだ”
というように感じてしまい、自己肯定感の低い
子どもに育ってしまいます。

見てほしいけれど言えない。気づいてもらえない・・・

そんな時に、子どもは叱られるという最終手段に出るのです。

これが大人が悩む、子どもの問題行動でもあります
これは子どもの SOS でもあるのです。

叱られてでも大人に見てほしいのです。気づいてほしいのです。
この子どものサインをどうか見落とさないであげてください。

子どもの“愛されたい”“認められたい”

“大切にされたい”という子どもが抱えている

これらの欲求を常に忘れず接することができれば、

必ず子どもの言動は落ち着いていきます。

問題行動については、本編の6章で行動別に

1つずつ詳しくまとめていますので、

こちらを読んでいただければ大人が悩むような子どもの行動も、

比較的早く、落ち着いてくるようになるかと思います。

こちらの教科書で紹介する接し方などは、全て子どもの

求めているこの3つの気持ちが満たされるようになっています。

そして、この教科書を読んでいくうちに、だんだん

子どもへの対応のコツがわかってくると思います。



このコツを習得してしまえば、どんな子どもの
行動であっても対応に困らず、ベストな接し方が
できるようになりますよ！

その結果、

・子育てってやり方1つでこんなにも楽になるんだ！

・子育てって難しいことじゃないんだ！

・子育てってこんなに楽しいんだ！

と、感じられると思います。

また、お母さんたちが疲れずに子どもたちを楽しませて
あげられる最高の子育て法についても3章でお話しています。

これを読んでいただくだけで、肩の力がスッと抜けて

笑顔が増え、びっくりするくらいお母さんの子育てが

楽になりますよ！

是非こちらで紹介する方法を実践し、

子どもへの接し方のコツを習得して

子どもと共に笑顔溢れる時間を楽しんでくださいね！

